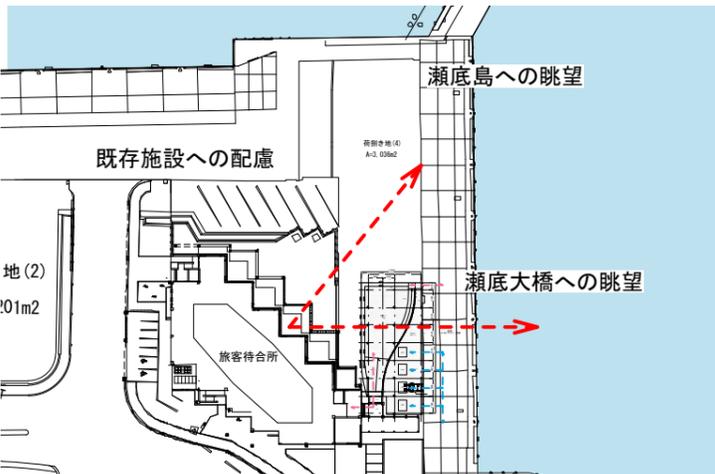


# 浮島 テラス

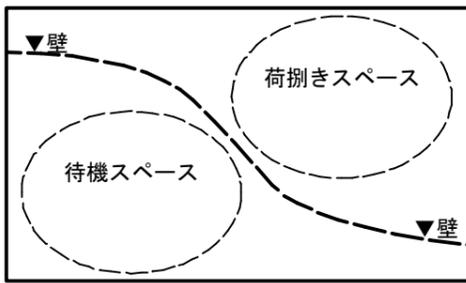
Float Islet  
Terrace

## ■「誰にでも」優しいテラス

既存のフェリーターミナルから瀬底島を望む眺望を阻害しないようフェリーターミナルと一体となる屋根付きの荷捌き施設とします。全面の景色を望むことができるよう、シンプルに屋根スラブと柱で構成し可能な限りフラットとなるよう計画します。また、フェリーに乗船する乗客の手荷物をコンテナへ積み込むスペースと団体旅行客が待機するスペースがあり動線が交錯するのを避けるため異なる2つの用途の間に緩く繋がる壁を挿入して計画します。壁はCOVID-19の影響で求められているソーシャルディスタンスも考慮しています。また、極力シンプルな構成としているため最小限のメンテナンスで済み将来的なランニングコストも抑えることができます。上記にあるように「既存ターミナル」、「バリアフリー」、「荷さばき」、「周辺環境」、「サスティナビリティ」等に配慮した「誰にでも」優しい施設とします。

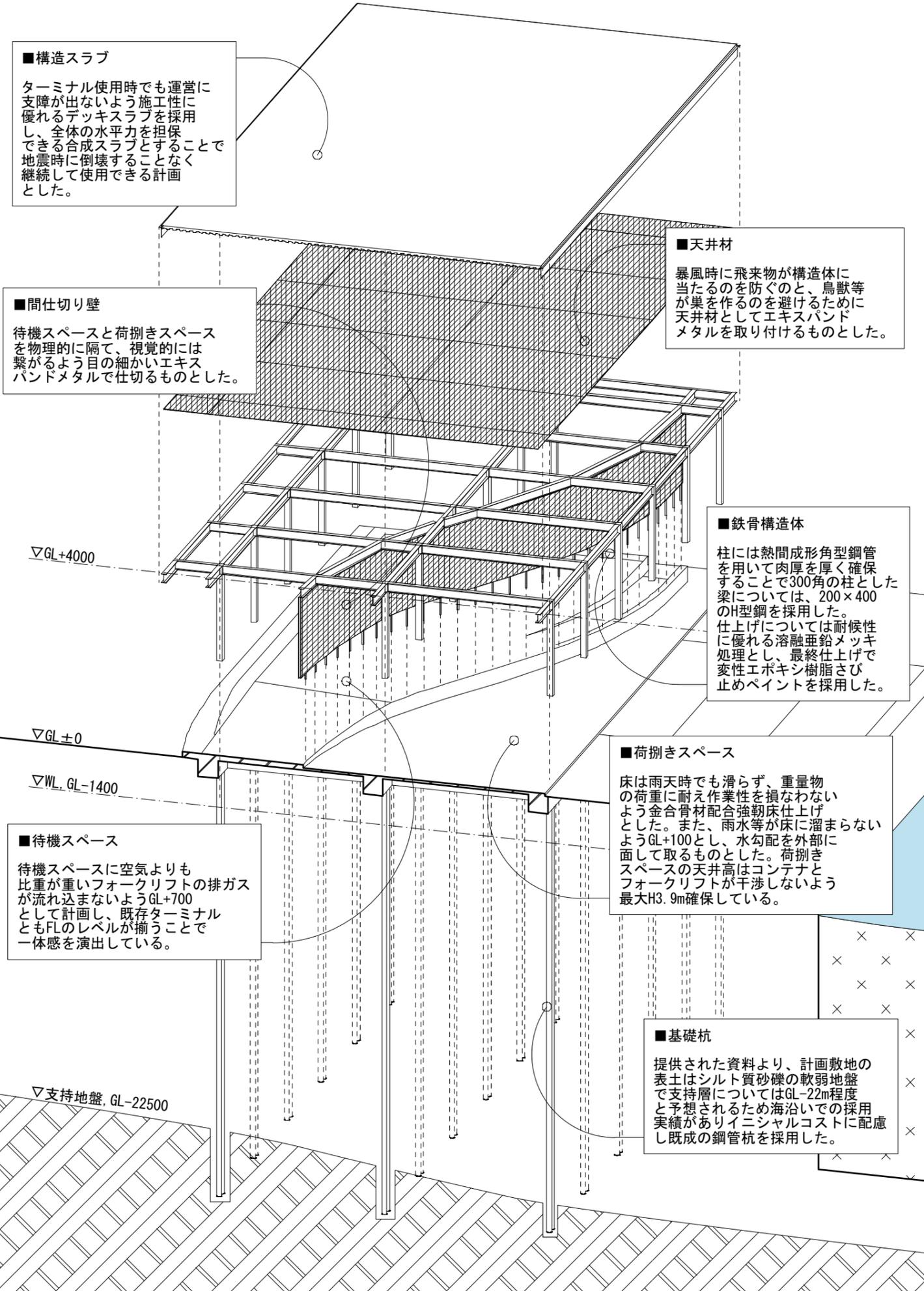


港湾周辺環境へ配慮した計画とします。



異なる用途のスペースを明快にゾーニングします。

## Axonometric Plan



■構造スラブ  
ターミナル使用時でも運営に支障が出ないよう施工性に優れるデッキスラブを採用し、全体の水平力を担保できる合成スラブとすることで地震時に倒壊することなく継続して使用できる計画とした。

■間仕切り壁  
待機スペースと荷捌きスペースを物理的に隔て、視覚的には繋がるよう目の細かいエキスパンドメタルで仕切るものとした。

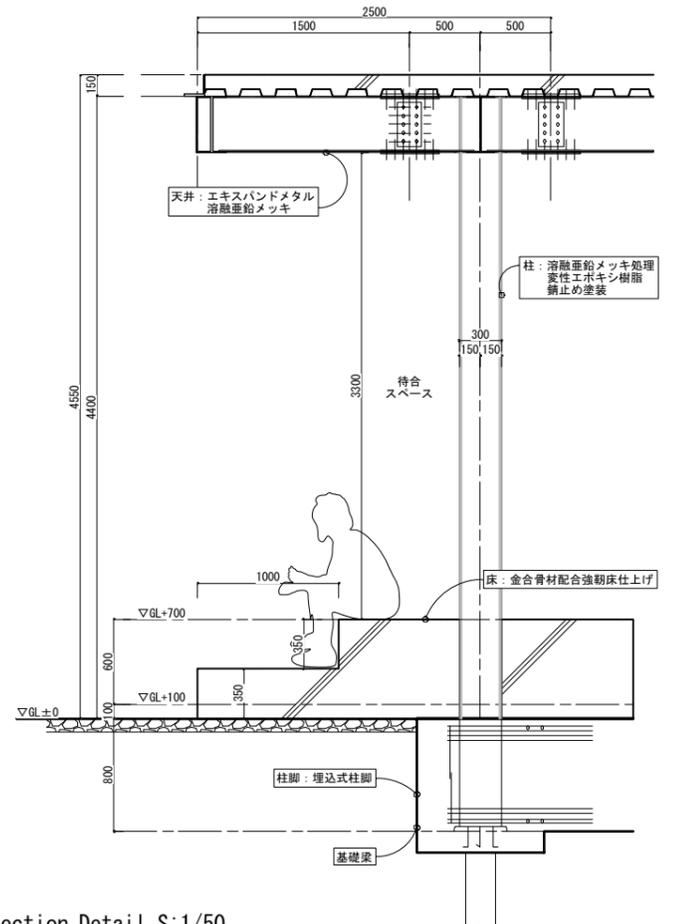
■天井材  
暴風時に飛来物が構造体に当たるのを防ぐのと、鳥獣等が巣を作るのを避けるために天井材としてエキスパンドメタルを取り付けるものとした。

■鉄骨構造体  
柱には熱間成形型鋼管を用いて肉厚を厚く確保することで300角の柱とした。梁については、200×400のH型鋼を採用した。仕上げについては耐候性に優れる溶融亜鉛メッキ処理とし、最終仕上げで変性エポキシ樹脂さび止めペイントを採用した。

■荷捌きスペース  
床は雨天時でも滑らず、重量物の荷重に耐え作業性を損なわないよう金合骨材配合強靱床仕上げとした。また、雨水等が床に溜まらないようGL+100とし、水勾配を外部に面して取るものとした。荷捌きスペースの天井高はコンテナとフォークリフトが干渉しないよう最大H3.9m確保している。

■基礎杭  
提供された資料より、計画敷地の表土はシルト質砂礫の軟弱地盤で支持層についてはGL-22m程度と予想されるため海治いでの採用実績がありイニシャルコストに配慮し既成の鋼管杭を採用した。

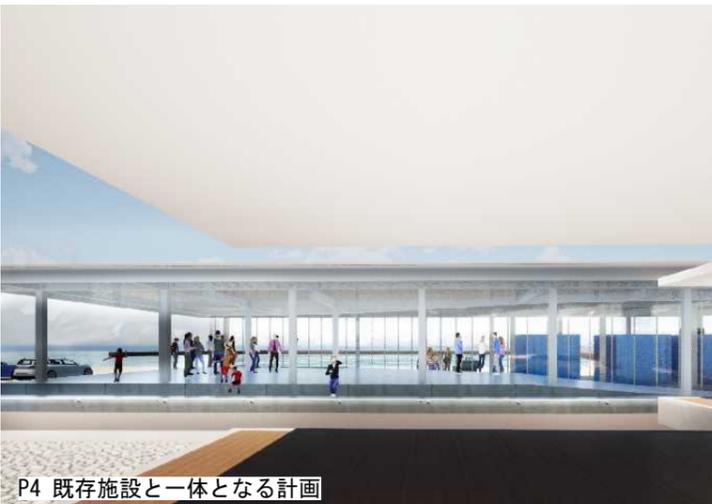
■待機スペース  
待機スペースに空気よりも比重が重いフォークリフトの排ガスが流れ込まないようGL+700として計画し、既存ターミナルともFLのレベルが揃うことで一体感を演出している。



Section Detail S:1/50



P3 港の景観に配慮した計画



P4 既存施設と一体となる計画

